





「宗教センター発足にあたって」

水曜公開礼拝は、私立大学研究ブランディング事業の一環として実施され、「水曜通信」を発行してまいりましたが、この4月から発足した東北学院宗教センターにおきまして、本業務を引き継ぎ、通信を発行いたします。今後共皆様の暖かい御支援と御協力を賜りますように心よりお願い申し上げます。

東北学院宗教センター所長 (院長・学長) 大西 晴樹

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、現在水曜礼拝は中止しております。 今後の開催については大学ホームページでご確認下さい。

(これ)</li

東北学院宗教センターがこの4月から発足いたしました。このセンターは、東北学院の設置学校全体のキリスト教活動をまとめる働きをします。それぞれが地理的に離れ、学校の特色も異なっている、大学、二つの高等学校、中学校、幼稚園が、パンフレットなどの印刷物や相互交流を通して東北学院らしいつながりをさらに続けられるように願っています。

これに加えて、今年度で終了する文部科学省の私立大学研究ブランディング事業で行っていた幾つかの活動を、このセンターが担い、継続していく予定です。具体的には、水曜公開礼拝、「水曜通信」、ランカスター神学校との交流、公開講座などです。

水曜公開礼拝に関しては、現在新型コロナウイルス感染予防のために開けず、収 束の時を待って再開したいと願っていますが、「水曜通信」は、何号かを合併して、 宗教センターから第1号を発行することといたしました。紙媒体も用いますが、電 子媒体でどこからでもアクセスできるようにしたいと思います。

学校法人東北学院と東北学院大学のホームページに宗教センターのホームページ が新設されましたので、そこをご覧になると、センターの活動の様子や行事予定、 さらに動画で配信する水曜公開礼拝、そして「水曜通信」が読めることになります。 現在少しずつ内容を増やし、充実したホームページにしたいと願っていますので、 これから期待していてください。

宗教センターのスタッフは、所長(院長・学長)大西晴樹先生です。実務責任者としてセンター主任を私(宗教部長)野村信が担当し、職員として大久保知美さんが土樋の礼拝堂のセンター室で勤務されています。このメンバーにセンターチャプレンと主事が来寿就任する予定です。

始まったばかりのセンターですが、どうぞよろしくお願いいたします。皆様の暖かいご支援とご協力を心よりお願いいたします。

宗教センター主任(宗教部長) 野村 信



宗教センターのスタッフと研究ブランディング事業関係者

水曜公開礼拝は、月に一度、第3水曜日の夜6時半から行われる市民への公開礼拝で、2017年4月以来 実施しています。2016年秋に採択された文科省の私立大学研究ブランディング事業の一環として、すなわち建学の精神とそのプレゼンスを地域で高めるためスタートしました。礼拝は、大学礼拝と同じく説教中心の30分で、20分の大学礼拝とは違って、聖書朗読前後の讃美歌は2曲歌い、オルガンによる前奏と後奏も長めの時間をとっています。説教者も院長・学長先生をはじめ、学内の教員有志だけでなく、退職された名誉教授や、招聘したランカスター神学校の校長先生と教授、また日本滞在中のドイツの神学者にもお願いできました。礼拝の後は、約30分の音楽による賛美で、礼拝担当オルガニストの独奏、音楽教員による独唱、宗教部聖歌隊の合唱、学生器楽合奏、グリークラブのOB、教職員聖歌隊の合唱により、また外部から男声重唱団や女声声楽家をお招きしたこともあります。8月と3月は開催せず年10回、2019年2月までに30回実施しました。参加者は、のべ1710名、毎回平均57名。第25回に東京芸大の菅英三子さんに独唱していただいたときは、仙台北教会の信徒の皆さんもまとまって参加してくださり、最大の120名の参加がありました。2020年度からは新設された宗教センターが引き継いで実施します。 (鐸木 道剛)



第9回水曜礼拝(2018年1月17日)

ロンドンのヒートン・バトラー&バイン工房1932年作の「昇天」ステンドグラスは、この時ブランディング事業の一環で横浜で修復中。ステンドグラスのない窓はカーテンで覆われています。

『ルカによる福音書』 第17章21節 神の国は、見える形では来ない。「ここにある」「あそこにある」と言えるものでもない。実に、神の国は、あなたがたの間にあるのだ。 『マタイによる福音書』 第18章20節 二人または三人がわたしの名によって集まるところに

『マルコによる福音書』第12章27節 神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神である。

は、私もその中にいる。

キリスト教の教義が確立した787年の第2ニケア公会議は、ヨハンネス・ダマスケヌスに従って、神と被造物を、ラトレイアとプロスキネシスの対象として区別しました。つまり神に対しては絶対的礼拝(ラトレイア)、被造物に対しては相対的礼拝(プロスキネシス)です。被造物の中で、聖地もまたプロスキネシスの対象です。つまりキリスト教の聖地とは、イエス様の思い出の場所であって、その場所自体が聖なるものではありません。聖書にも「神の国は、見える形では来ない」と記されているように、イエス様に繋がって人々の集まるところが神の国つまり聖なる場所なのです。それが礼拝の意味です。しかしイエス様なしの単なる人々の集まりでは地縁血縁でしかなく、それは地上的レベルのつながりです。

つまり神が被造物となった受肉によって、被造物は神とつながることが可能になり、「生きている者」すなわち現実世界が肯定されたのです。そこで「命」「光」「愛」の実践が大切になります。コロナ禍で命を危険に晒すことは許されないので、実際に集まることは避けねばなりません。ヴァーチャルの集まりではありますが、遠隔でパンと葡萄酒による聖餐に与る試みもあります。また普段なら参加できない人もヴァーチャルだからこそ参加できることもあります。制限された中においても精一杯、神を賛美しましょう。実際の礼拝が可能となれば、礼拝はまた一段と感動的なものになるでしょう。

3

第30回 水曜礼拝報告 (説教:松本宣郎、奏楽:小野なおみ)

2020年2月19日 (水) 18:30-19:00

讃美歌:48番「しずけきゆうべの」

聖 書: ヨハネによる福音書 15章11~17節

讃美歌:187番「主よいのちのことばを」 説 教:「私があなたがたを愛したように」

頌 栄:541番「ちちみこみたまの」

【説教要旨】

イエスが受難を受ける直前、弟子たちに語ったことばである。わたしたち人間にイエスは「互いに愛し合いなさい」と命じる。「友のために自分の命を捨てる」ほどに愛せ、と。とても不可能だ、と思われる。しかし、イエスご自身は生涯人々を愛し、弱い人々を特に慈しんだ。罪なくして捕らわれ、十字架上で殺された。それはすべての人類、私たちひとりびとりの罪を償うためであった。まさにイエスは私たちすべてを友として、身代わりに命を捨ててくださったのだ。そのイエスというブドウの木に私たちはつながっている。ましてやイエスは十字架に死んだけれど復活された。そうである以上、私たちはイエスにならうことが出来る。イエスが愛してくださったのだから、私たちはそのように、命を捨てても他者を愛せるのだ。

前奏:J.G.ヴァルター「われらに救い来たれり」 後奏:J.S.バッハ「われらに救い来たれり」BWV638

今回は教会暦に合わせて、受難節前のコラールを使ったJ.G.ヴァルターとJ.S.バッハの作品を選びました。J.G.ヴァルターはJ.S.バッハの従兄であり、18世紀に活躍したドイツの作曲家兼オルガニストです。ヴァルターはドイツコラールに基づいたオルガン作品を数多く残しており、その弾き易さから、日本でも多くのオルガニストが礼拝奏楽曲のレパートリーとしております。 (小野 なおみ)



礼拝とその後の19時00分から30分までの東北学院教職員聖歌隊による賛美に61名の市民が参加されました。

礼拝後、東北学院教職員聖歌隊による賛美

2月の水曜礼拝では、東北学院教職員聖歌隊が合唱による賛美を捧げました。教職員聖歌隊は東北学院教職員の他、OBOGおよび関係者にも広く開かれた合唱団として、昨年の5月から月に一度(第四水曜日)、ホーイ記念館地下音楽室で練習を続けてきました。12月の「教職員クリスマス」祝会でクリスマスの讃美歌を歌ってデビューし、この2月水曜礼拝が二度目の発表となります。

はじめに、年末年始にあたってのクリスチャンの心構えを有名なグリーンスリーブスの旋律に乗せてうたった讃美歌第二編152番《ふるいものはみな》をオルガンと合唱し、続いてドイツ民謡をもとにした第二編142番《すみわたる大空に》を混声ユニゾンの独特な響きで賛美しました。そして中川がメンデルスゾーンの傑作オラトリオ《パウロ》をもとにした第二編209番を独唱した後、学院の

核として歌い継がれてきた讃美歌121番《まぶねの中に》をア・カペラ(無伴奏)で合唱しました。教職員聖歌隊の提唱者である松本院長先生が見守ってくださる中、賛美を捧げられたことに感謝いたします。ア・カペラの奉唱曲では、水曜礼拝開始当初から奏楽でお支えくださっているオルガニストの小野なおみ先生も合唱に加わってくださり、幸せなひと時となりました。新しい年度も教職員聖歌隊がさらに「歌の環」を拡げていけることを願ったも教職員聖歌隊がさらに「歌の環」を拡げていけることを願ったも教職員聖歌隊がさらに「歌の環」を拡げていけることを願ったります。



金子謹三 - ランカスターとの懸け橋 -

アメリカ東部ペンシルヴェニア州ランカスター市の共同墓地に、一人の 日本人の墓があります。墓石には次のように刻まれています。

4

GEORGE KINZO KANEKO BORN OCT.10.1865 DIED MAY 15.1895 FAITHFUL UNTO DEATH.



金子謹三の墓石

彼の名は、金子謹三。1895 (明治28) 年5月15日に29歳の若さで亡くなり、死に至るまで信仰に生きた人物であることがわかります。彼は東北学院の卒業生でも教職員でもありません。しかし彼は死後、東北学院に多大なる貢献をすることになるのです。

金子は、岩手県花巻市(当時は里川口村)に生まれ、19歳で大蔵省勤務の長兄のアメリカ赴任に伴って渡米し、ランカスターにあるフランクリン・アンド・マーシャル大学(F&M大学)付属のアカデミーに入学しました。そこで金子は、隣接するランカスター神学校に在学中のホーイと出会い、キリスト教信仰へと導かれました。金子はホーイが最初に信仰に導いた日本人となったのです。さらに、ホーイは日本に出発するに際して金子を伴い、ランカスター神学校の2年先輩で同じく日本伝道を志していたシュネーダーを訪ねますが、金子はシュネーダーが初めて出会った日本人ともなりました。

金子は、その後F&M大学本科に進学し、さらにランカスター神学校に 進んで伝道者への道を歩み始めました。既に東北学院に着任していたホー イとシュネーダーは、金子を神学部の旧約学教授として選任することを決



学生時代の金子謹三

定し、金子はそれを受けて卒業後もさらに一年間特別研究に励みました。しかし、以前から彼の健康を 蝕んでいた肺の疾患が急速に悪化し、帰国を目前にして金子は急逝しました。 神学校や教会関係者の間 で慕われていた金子の異郷の地での英雄的な死は、教会全体に大きな感動を巻き起こし、金子の名を冠 した「金子記念基金」への募金は、最終的には外国伝道局予算の年額に相当する二万五千ドルもの巨額 に達しました。東北学院理事局は、金子を支えたアメリカの同信の兄弟たちに公式に感謝の意を表し、 金子の記憶が長く保持されるように基金を用いることを確約しました。この基金は、ホーイが提案した 「金子記念印刷所」(当時働きながら学ぶ学生のために設立された東北学院労働会の印刷部門)の設立の ために初めて用いられ、その後シュネーダーが東北学院の存立と発展のために必要であった校地(東二



墓前での記念礼拝(2018年8月8日)

番丁の中学部、南六軒丁の専門部など)の取得のために用いられました。

金子謹三の小さな墓石は、東北学院の創立 者を輩出したランカスター神学校と本院をつ なぐ目に見える印として、また死んでも「信 仰によって今もなお語っている」(ヘブル11: 4) キリスト者の証しとして、あの地に置かれ ています。

ランカスターでもほとんど忘れ去られた金 子の生涯をリッチ前学長にお話ししたところ、 神学校の主だった方々が墓前礼拝を捧げてく ださいました。

(東北学院史資料センター 日野 哲)

宗教センターに期待すること



学校法人東北学院の宗教センター設立を心よりお祝い申し上げます。キリスト教学校のキャンパス・ミニストリーを担う場として、貴センターが学内のみならず多くの方々へ受け入れられて行くことを願います。また、貴センターが学校法人東北学院全体をつなぎ、建学の精神に基づく豊かな働きをなして行けるよう期待します。

東北学院中学校·高等学校校長 阿部 恒幸



東北学院の建学の精神であるキリスト教教育を運営する宗教センターが2020年4月に発足し、大西晴樹センター所長はじめ所員の方々のはたらきに感謝申し上げます。生徒の中には入学式の聖句(ヨハネの福音書15章11-17節)を強く印象に残っている者もおり、センターからのメッセージに生徒及び保護者の皆様に「心の恵み」となる言葉を期待します。

東北学院榴ケ岡高等学校校長 湯本 良次



宗教センター設立を心よりお喜び申し上げます。 園内にチャプレンがおらず、教師もまた未信徒が多い中、子どもたちとの日々の礼拝は神様の愛を明確に伝えているとは言い難い状況でした。宗教センターの設立は幼稚園の宗教活動を高め、発展させていくことと期待しております。礼拝でのメッセージを始め様々連携を図り、清き幼子の心に祈りの種を蒔いていきたいと思います。

東北学院幼稚園園長 島内 久美子

教職員聖歌隊結成のきっかけは、2018年の教職員クリスマス祝会での松本宣郎(前)理事長の一言でした。松本先生は、学生時代にグリークラブあるいは聖歌隊に属していた現職員数名の名前をあげて、皆さんに「教職員も学生に倣って聖歌隊を作ったらどうだろうか」と提案されました。その場で、これは私がお世話しますと申し上げ、指導は宗教音楽研究所の中川郁太郎特任准教授に依頼、礼拝オルガニストの今井奈緒子教授の熱烈な支持もあり、2019年5月の第4水曜日にホーイ記念館の音楽室で初顔合わせをしました。その時は発起人5名の集まりでしたが、参加者がすぐに増えて現在は各パートに4人は揃うようになっています。今年の2月19日の水曜礼拝では、練習の成果として3曲を礼拝後の音楽による賛美として歌いました。最終的な目的は、バッハに先立つハインリッヒ・シュッツの合唱曲を歌うことで、すでにバッハのクリスマス・オラトリオからコラールの練習をはじめています。

4月からは対面での練習はできず、6月からはZoomで、対面と同じスケジュールで毎月第四水曜日の夜7時から集まっています。次回は9月23日の夜7時です。ZoomのIDとパスワードは宗教センターのホームページに掲載する予定です。学院関係者ならどなたでも大歓迎です。

(鐸木 道剛)



定例第8回練習(2020年1月22日)





水曜通信4年目の2020年度の枠飾りは、帝政ロシア時代にガガーリン公爵が編纂した『ビザンティンと中世ロシアの装飾文様集成』(サンクトペテルブルク、1887年)所載のモチーフから作成しました。全50葉のアルバムの第33葉で、パリの国立図書館蔵の12世紀の写本からです。グリゴリー・グリゴリエヴィチ・ガガーリン公爵(1810-93年)は、富裕な外交官の家系で、プーシキンやレールモントフの友人。ペテルブルグ美術アカデミーの副総裁ともなり、またデザイナーでもありました。

(鐸木 道剛)

ランカスター神学校から東北学院大学へのご挨拶



この困難な時期にみなさんも努力しておられると思います。 ランカスターでは、COVID-19伝染病のため、すべての授業 と大人数の集まりは全てネット経由になっています。各コース の学生は、Zoomで週2回2時間のミーティングを持っています。 それと同時に様々なオンデマンドの集まりがあります。特に効 果的なのは「フォーラム」と名付けられた場で、学生は教員に よる質問に答え、また同じクラスの仲間の学生の回答に反応し たりします。これも新しい形の教育で、いろいろ試しています。 来る9月4日は、5月に修了した学生の学位授与式です。例

年よりは規模も小さくなりますが、喜ばしい集まりになると思います。話をしてくださるのは、ランカスター神学校の卒業生で、聖公会の中央ペンシルヴェニア教区の退職主教であるナタン・バクスター師です。学位授与式はランカスター神学校のホームページ(https://www.lancasterseminary.edu)から、YouTubeで見られます。

毎週2回の礼拝もまたZoomで実施していますので、どうぞ参加ください。やはりランカスター神学校のホームページから入れます。礼拝は在学生と卒業生が準備しています。今年度の最初の説教は、暫定校長のダヴィド・ロウ博士で、聖務日課にしたがって『出エジプト記』に記された幼児モーセの話をされ、死を扱う(death-dealing)のではなく、命を与える(life-giving)福音によって恐怖を乗り越える勇気を与えてくれました。これは伝染病だけでなく、深い政治的対立、構造的人種差別と白人優位についての辛い自覚で苦しむ現代、時宜に叶った内容でした。

人種差別については、ランカスター神学校は、様々な出自の学生を受け入れてきて、人種的正義に関わってきました。しかし充分ではなく、例えばマーサーズバーグ論争で中心的役割を果たしたフィリップ・シャフはヨーロッパ中心主義者で、アフリカ系アメリカ人の徳と価値に関わらなかったので、彼の名前が図書館名から削除されることになりました。

2年次の学生が早ければ来年にでも、仙台を中心に、日本に研修に行くことをとても楽しみにしています。異文化交流は、ランカスター神学校の重要なカリキュラムの一部であり、学生への影響は大きなものがあります。彼らが日本から持ち帰る成果にとても期待するものです。

ランカスター神学校(教会史)アン・タイヤー教授(Dr. Anne Thaver)



東北学院宗教センター編「水曜通信」 第1号

2020年9月17日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋 1-3-1 発行責任者:宗教センター主任 野村信

編集協力者:鐸木道剛

東北学院宗教センター TEL: 022-264-6558 Email: c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp